（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターマイム			
○保護者評価実施期間	令和７年　２月　２１日		～	令和７年　３月　１４日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	65	（回答者数）	45
○従業者評価実施期間	令和７年　２月　２１日		～	令和７年　３月　１４日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	17	（回答者数）	17
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　３月　３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援 感覚遊び（感覚統合を目的とした支援）ができる環境が充実している。 様々な障害の種別や障害の特性に対応した専門的かつ適切な支援等を実施している。	様々な空間を有効に活用して、感覚遊び（トランポリンや感覚統合を目的とした室内ブランコなど）ができる環境を工夫して設置させている。特にスヌーズレンルームは、アドバイザーの助言を取り入れて、設置している。	児童一人一人のニーズに応じて、根拠に基づいたプログラムを外部の専門家と連携して作成する計画である。 また、障害特性に応じて、児童が座りにくさを感じず、いろいろな物に興味関心を示す能力を引き出す、姿勢保持のための椅子の開発を行う。
2	家族支援 相談支援専門員を配置して適切な支援の提供に努めている。 保護者に対して、発達相談や発達支援の推進について､地域のネットワークを活用しながら、適切に実施している。	障害の疑いがある児童の子育てに悩む保護者や、地域の保育園に通うことが難しいとされる幼児児童の保護者相談から、１，２歳児童の「わくわく」遊びの会を実施して、発達相談や発達支援の推進に繋げて､適切に児童発達支援に結びつけている。	保護者が関係機関と繋がりながら、就学前、就学、就学後等の支援を、市の関係機関と連携しながら、保護者に向けた情報ネットワークの構築を計画している。
3	地域支援 幼稚園や保育園における併行利用をしながら、地域のインクルージョンを積極的に推進している。	行政と連携して地域のネットワークを活用しながら、発達相談や発達支援の推進に繋げる研修会を実施したり、市内の保育士を招いた研修会を継続して実施しながら、児童発達支援の理解推進を推進している。	当センターの小規模保育園と新たな、シンクルーシブ保育の取り組みとして、「センサリープレイ」を試行的に実施し、地域のインクルーシブ保育の推進を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援事業に関する組織的マネージメントについて 児童発達支援事業の経営に関する人材育成について、様々な法や制度を理解しながら、幼児児童一人一人の将来を見据えた、適切な療育を進める事業として、組織的に人材育成をすすめることが大切である。	当センターは、放課後デイサービスがないため、児童一人一人の将来を見据えた視点と関係機関と連携したサポートが課題である。	障害特性に関する高い専門性のある外部専門家のアドバイスなどを取り入れ、児童一人一人の将来を見据えた適切な療育を実施できる人材の育成と、医療、教育、福祉の関係機関と連携できる人材を具体的な研修等を通して計画的に育成を図っていく。
2	非常時等の対応について 今後、予想される大威規模災害や予期できな感染の予防対策について、本法人や行政、地域の医療機関と連携しながら、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を計画的に実施していく。	今年度、当センターはBCPを作成するとともに、小規模保育園と合同の総合防災訓練を実施したが、搬送訓練など、具体的かつ計画的な災害訓練が十分実施されていない。また、法人や関係機関と連携した対策が不十分計画されていない。	今後、重症心身障害のある幼児児童に対する救急搬送や避難など、実際の状況を想定した訓練を実施して、予期しない状況でも対応できる訓練を至急、企画、実施していく。
3	保護者支援について 様々な障害特性をもつ児童の子育てをしている保護者に対して、適切で寄り添える支援と、必要な情報発信、相談支援を実施していく。	今年度、当センターは相談支援専門員を配置し、様々な相談に対応しているが、相談に踏み切れないで孤立している保護者への支援が十分できていない。また、当センターにおけるペアレントメンターの支援が不十分である。	今後、SNSなどを活用して、第一段階として孤立している保護者と広く浅くの繋がりを持てるように、行政や関係機関の支援など必要な情報を提供できるチーム作りと、ペアレントメンターによる保護者支援等を実施していく。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

実施月：令和7年2～3月　　ひかり8(13) にじ11(17) そら26(35)　　公表：令和7年5月8日

事業所名：児童発達支援センターマイム　　**保護者等数（児童数）65　回収数 46　割合 70 %**

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	42	2	0	2	・閉鎖的な空間が苦手なので慣れるまで時間がかかった。 ・環境はとても良く整っている。	・当センターでは1人あたり約３～６㎡と基準を満たしています。構造上、限られたスペースの中で、廊下やホール、遊戯室などの施設を有効に活用して支援を実施しています。児童数の増加もあり、更に施設の有効利用を進めます。また小規模保育園とのインクルージョンの推進を図って行きます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	42	2	0	2	・手厚い支援である。 ・専門的な知識や考えを教えてもらい、ありがたい。 ・補助の職員は専門性がないように感じる。	・当センターでは園児２名に1名以上の職員配置をし、セラピストと保育士が専門的な支援を連携しています。 ・令和6年度からSTも配置し、外部専門家支援も継続して実施しています。 ・配置基準は満たしている上、加配人員での配置をしています。 ・今後、職員研修を充実させ、専門性の向上を図ります。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされているか	43	1	0	2	・複数人数の時、タブレット1台でモニターに映し出される子どもの様子が見えにくく、声も聞き辛いことがあった。 ・当日の支援内容がホワイトボードに書かれてあり、イラストカードも貼ってあるので、わかりやすい。	・モニターによる映像配信については、通信環境等も含めて整備を進めて行きます。 ・お子さん一人一人の安心・安全を最大限に重視して、お子さんが、主体的に行動できるよう環境の改善を図っていきます。 ・コミュニケーションカードなど、視覚シンボルにも改善を進めて行きます。 ・部屋の衛生についても十分、配慮して行きます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	44	0	0	2	・広すぎても集中できないので、丁度よいスペースだと思う。清潔感もあり安心できる。	
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	42	2	0	2	・支援計画は実態に応じて立てているが、日々の療育は、子どもの状態に合わせて適切に支援がなされているかどうか、わからない。	・児童発達支援ガイドラインに沿って、個々のニーズに合わせた支援となるように、児童発達支援計画を作成しています。今後、保護者の皆様には、根拠を明確にして、支援計画を提示できるようにしていきます。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の 「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から 子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、 その上で、具体的な支援内容が設定されているか	38	1	0	7	・保護者の要望は聞いてくれるが、こちらから聞かないと曖昧な支援になりかねない。	・今年度も就学支援や保護者支援の研修会に加えて、外部専門家による保護者個別相談も試行的に実施しました。地域支援は併行利用するお子さんが増加して、保育園・幼稚園等とは連携が重要になってしました。そのため、年間を通して保育所等に訪問や、保育所等訪問支援の実施しました。また、試行ではありますが「家族支援」として家庭訪問も実施したり、わくわく遊びの会を実施して「地域支援」にも取り組みました。今後、取り組みの結果などを積極的に発信して行きます。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	41	2	0	3		・支援の時間が限られている中で、児童発達支援計画に則り、お子さん一人一人のニーズに応じた支援を実施し、保護者の皆様にも支援内容について、根拠をもって説明をして行きます。 ・個別支援計画を基本に、活動プログラムが固定化しないように、障害のあるお子さんの成長に合わせて、支援プログラムの改善と工夫していきます。 ・外部専門家の活用もしながら、より専門的な支援の充実を図って行きます。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されて いるか	40	3	0	3	・子どもの様子に合わせた活動をしている。 ・様々な取組をするため内容が駆け足だと感じた。ひとつひとつをじっくり取組んでほしい。 ・子どもの得意で好きな活動は繰り返しつつ、新しい活動も入るので、支援が固定化されないと思う。	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	19	3	12	12	・異年齢集団の交流も必要だと思うが、必要がないと考える。必要であれば、目的と理由を明確に示してほしい。 ・クラスの時間帯によっては交流する機会もあると思う。 ・週1時間なので、交流がない。	・同じ建物内のエメット保育園とは、感染予防対策を十分にとりながら、各クラスと誕生日会、朝の体操（くるくるタイム）、クリスマス会等に加えて、新たにインクルーシブな取り組みとして、「センサリープレイ」を実施しました。障害の有無や軽重に関係なく、お互いを認め合う大切な力を育む第一歩となりました。今後、さらに入園式や行事に加えて、日常支援にも交流する機会を増やしインクルーシブな支援を進めて行きます。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な 説明がなされたか	39	2	2	3	・契約時に丁寧な説明をしてもらえて安心できた。	・今年度は大きな改定があり、契約時に運営規程、利用者負担等について丁寧説明を説明をしてきました。 次年度も、給食費や制度の改正に伴い契約者の方々には、更に丁寧に説明をしていきます。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	41	2	0	3	・わかりやすく説明をしていただき、今後の課題も見えてきたので、家庭でもでできることはやりたいと思う。	児童発達支援ガイドラインに示されている児童発達支援の提供すべき支援やねらい及び支援内容と、児童発達支援計画について支援内容の説明をしています。今年度、児童発達支援センターマイム5領域プログラムを作成しました。今後、保護者の皆様には支援内容について丁寧に説明していきます。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	22	10	2	12	・何が該当するかわからないです。 ・とても丁寧でありがたい。 ・ペアレント・トレーニング研修会があればうれしい。	・今年度、家族支援の講座として、「就学相談」に関する講座を２回実施しました。また、外部専門家による個別相談や、試行実施として、家庭訪問も実施して、子育てや就学について支援を行いました。今後、対面の保護者会や研修会等、家族支援プログラムを定期的に実施し、センターとして保護者支援や地域支援の充実を図って行きます。 ・次年度、個別の家族支援プログラムやペアレント・トレーニングをて実施いたします。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	44	0	0	2	・家庭の様子や当センターでの様子を伝えて合いフォローもしてくれる。 ・迎え時に子どもの様子を詳しく伝えてくれるので、ありがたい。 ・親でも気付かない細かな変化などを教えてもらった。できるようになったことを一緒に喜んでもらえて、嬉しかった。	・各職員間での情報共有や、お子さん一人一人の情報から課題を明確にして、チームとして支援を進めています。 ・今後、お子さまの小さな変化や成長を見過ごすことなく、ご家庭での様子と当センターの様子を共有し、専門的な視点も踏まえながら、将来を見据えて、より良い支援につなげてまいります。 ・次年度は、特に年長のお子さんについて、就学に向けての個別面談やモニタリングの面談を随時実施いたします。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	36	4	0	6	毎回の活動の後に、最近の様子を共有する時間があり、サポートしてもらっている。	・今年度、家族からの相談に対する適切な助言や家庭の子育て等「家族支援」について、外部の専門家からも情報を得て、支援を行ってきました。今後、保護者面談についてさらに充実を図り、計画的に保護者支援を進めていきます。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援されているか	22	6	5	13	・いつも柔軟に対応してくれる。 ・支援されているかというと支援されていない。	・今年度は、長時間の２クラスで対面による保護者会を実施しました。 次年度は、各クラスにおける対面による保護者会の複数会数実施するなど検討して保護者連携を支援して行きます。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	39	4	0	3	・対応する職員によって返答が異なる。 ・相談するとすぐに対応をしてくれるので、悩みを引きらず良かった。	・今年度、お子さんの状況などを職員間で情報共有しながら支援してきました。今後、情報共有について、事前に情報を共有をして行きます。 是非、気軽に相談ください。お受けする時間を調整いたします。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	40	4	0	2		・今年度も、お子さん一人一人に写真カードなどの視覚教材を活用して、情報の伝達を行っています。 ・クラスだより、クラスの掲示、SNSなどを活用して保護者に情報伝達を行っています。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	32	3	0	11	・紙面だけでなくアプリ等が活用できると家族で共有できる。 ・自己評価の結果はHPで確認できる。	・今年度、マチコミメールや限定動画配信による情報を配信しました。 ・今後、おたよりやホームページに加えて、インスタグラムなどSNSなどを活用しながら、迅速で適切な情報伝達をして行きます。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	39	3	0	4		・今後も写真や動画等、保管と同時に、使用する際には事前に確認するなど、個人情報の取り扱いには十分注意します。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	27	5	0	14	・保護者同伴なのであまり必要性を感じない。	・今年度（令和6年度）は、SLPセンターアークとして大規模災害を想定した訓練を全体で計画・実施しました。また、感染症対策マニュアルやBCPを作成して確認を行いました。 ・次年度、消火器訓練や引き渡し訓練の実施や、HPやSNSなどで避難訓練等の様子を掲示していきます。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	3	3	16	・保護者同伴なのであまり必要性を感じない。 ・そらクラスはやっていない。	・今年度、大規地震災害を予想した訓練を、マイムとエメット合同で実施しました。各クラスでは毎月、実施していますが、大規模災害に備えて、避難訓練を実施します。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	35	3	1	7	・いろいろな活動が体験でき楽しく通えている。 ・子どもが話で伝えないが、嫌がる様子はなく安心している。 ・子どものその日の気分によって異なる。	お子さん一人一人の将来を見据えて、様々な支援についてエメット保育園や、関係機関等と計画的に連携して、インクルーシブな支援の充実を図るセンターとなるように努めていきます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	42	1	0	3	・いつもありがとうございます。 ・大変満足している。大変に満足している。 ・とても満足している。通うことができ子どもも親も成長できた。	今年度、地域の児童発達支援センターとしての役割を担うべく、お子さまや保護者、地域へセンターとして「発達支援」、「保護者支援」、「地域支援」を実施しました。今後も更に充実した支援を目指して行きます。

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

実施月：令和7年2～3月

公表：令和7年5月8日

事業所名：児童発達支援センターマイム

職員数：17　回答数：17　割合：100%

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない 無記入	ご意見	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	7	2	・時間帯によっては人数が過密であると感じて他の部屋に行くこともある。 ・クラスによってはスペースが狭いことがあるかもしれない。 ・子どもの月齢に応じた生活リズムが違うため、部屋数が足りない。 ・子どもによっては、別室利用や環境設定など工夫が必要だと考える。 ・感覚遊戯室がクラスの部屋となり、他クラスとの交流が減って遊べる場所に限りがあり、困っている。 ・午後の時間の部屋の使い方について、検討してほしい。	・当センターでは1人あたり約３～６㎡と基準を満たしてています。クラスによっては、狭さを感じる時もあり、体を動かす活動には、廊下やホール、遊戯室などで実施するなどの配慮をしています。令和６年度11月から、児童発達支援センターの一元化の推進により、児童数が定員数に近づき、昨年度より子どもの数も増え、狭く感じると思います。 児童数の増加により、各部屋や施設の有効活用を行うため配置換えを行う等、改善を図りました。今後、エメット保育園とマイムの一体化を目指して施設のの共有スペースも検討して改善を図って行きます。
	②	職員の配置数は適切である	12	9	2	・時期によっては職員が不足と感じたが、現在は適切だと思われる。職員が不足だった時は応援に来てくれて助かっている。 ・業務の分担を行っている。 ・不安はある。 ・特定の日には、厳しい職員体制の日がある。 ・最低限の職員が配置されている。 ・来年度、少し余裕のある職員配置が望ましい。 ・非常勤職員が多い場面で、1日の支援内容の計画が難しいことがある。	・子ども一人一人の能力や可能性を伸ばし、将来を見据えた支援を実施してきました。現在、産休等の欠員もありましたが、定数の確保は維持できています。令和６年度11月から、児童発達支援センターの一元化により、職員の配置が柔軟となりました。本センターの経営を持続可能な経営にするためにも、職員一人一人が経営方針に沿って、それぞれの役割に応じて支援に当たることができるようします。今後、職員の導線や備品の置き方など支援を行うための環境の改善について良く精査し、計画的な支援を行っていきます。 ・配置基準は満たしているので、適切なな加配人員での配置をしています。 ・常勤職員と非常勤職員の情報共有を十分にできるようにして、支援の改善を図って行きます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、 事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達 等への配慮が適切になされている	14	7	2	・児童に合わせて、視覚支援や部屋の環境を変更している。 ・床が堅い。マットを使用したい。 ・人数、部屋のスペース、職員の配置など、子どもの状況把握が難しいことがある。	・建物の基本的な構造は変更できないですが、子どもの安心・安全と成長を支援する構造化を推進し、必要な物品に対しては予算確保し、長期的、中期的な改善を図っていきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境 になっている。また、子ども達の活動に合わせた 空間となっている	16	4	3	・清掃に努めているが、他のクラスの使用後、清掃されていないことがある。 ・子どものロッカー等、改善が必要である。	・部屋の使用後の清掃については、全職員で周知します。 ・子ども数の増加に伴い、ロッカーなど必要備品については検討を始めます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	15	5	3	・委員会などがあると対応できると考える。 ・職員間での共有時間は設定しているが、まとまらず解決には至っていない。 ・形としては設定されているが、実際にはできていないことが多い。	・職員が経営的視点を持ちながらPDCAサイクルで意識改善を積極的に進めるとと同時に、職員が当センターの経営に当事者意識をもって参画できる組織とそれぞれの役割分担の明示化することにより、業務改善を図って行きます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	20	2	1	第三者評価ではどこの部署に改善が求められているのかわかりにくい。直接、部署ごとにアンケートをとることも必要かもしれないと考える。	・モニタリング等で保護者のニーズを聞き取り、支援の改善を実施しています。また、保護者と外部専門家の個別相談や就学に向けての研修会、家庭訪問（試行）も実施しました。 ・今年度も、事業所向け自己評価表及び保護者向け自己評価の結果を合わせて、事業所として自己評価を行いました。その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームで公開しました。 ・次年度は、第三者評価や自己評価（保護者）による外部評価を参考にして、経営計画を基本に改善を図っていくとともに、SNSなどを活用したり、保護者の意見を聞ける場を設ける等、保護者支援を進めます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を 行うとともに、その結果による支援の質の評価 及び改善の内容を、事業所の会報やホーム ページ等で公開している	22	0	1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17	3	3	・今後の課題として検討したい。 ・外部からの講師を取り入れているが、改善しているようには感じない。	・第三者による外部評価を実施し、支援や業務改善につなげています。また外部講師による、支援等の改善を図っています。評価項目についてHPなどで明確に周知し、組織的な業務改善に反映させて行きます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	4	3	・中々、時間が取れていない。 ・研修をもっと増やしてほしい。 ・各部署で勉強会の時間を取れると良い。 ・もう少し、研修を充実させてほしい。	・今年度、試行的に外部専門家を活用した研修会や保護者支援を含めた研修を実施しました。また、外部専門家を活用した対面での研修会も実施しました。 ・組織全体の人材育成に向けたショート研修を実施しました。次年度は、学校や連携機関の視察や専門性向上に向けた研修も実施して行きます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、児童 発達支援計画を作成している	17	3	3	・アセスメントについて学んでいるが、実務では大まかな発達段階をを捉えている状況である。 ・保護者のニーズは拾えているが、アセスメントは主観による所が大きく、適切かどうかは疑問に思う。 ・具体的な書面化された物はない。 ・アセスメントツールの使い方を学ぶと同時に、当センターとして特定のツールの使用を周知もよい。	・今年度、子ども一人一人の客観的なアセスメントから子どもの中心的な課題や、保護者のニーズを引き出す、個別支援計画の作成手順を作成し、実践と照らし合わせて評価を検討しました。また、当センターの5領域を基本とした支援プログラムを作成して、個別支援計画と関連付けを明確にして適切な支援を実施しました。来年度は、5領域とのつながりと根拠に基づく個別支援計画の作成と実施を推進し、家族支援、地域支援を行う組織的研修を短時間で実施して行きます。 ・次年度、子どもの適応行動の状況標準化されたアセスメントツールを併用をしながら、子どもの個別支援の内容を明確にします。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化 されたアセスメントツールを使用している	9	8	6	・子どもの状況を把握するためのツールとして、職員に周知する必要がある。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	20	1	2	・ガイドラインに目を通しているが、ガイドラインに則して実施はできていない。	今年度、児童発達支援ガイドライン等を参考にしながら「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」について具体的に進めましたす。今後、具体的な支援内容を設定して個別支援計画を立てながら必要な項目の整理と支援内容、評価のサイクルを検討し、職員の研修も含めた研修を実施して行きます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	21	0	2	・計画からずれてしまうこともあり、軌道修正しながら実施している。 ・計画に沿うよう努めているが、十分、沿っていないことがある。	・今年度、個別の支援を実施する中で、支援の軌道修正しながら、児童発達支援計画に沿った支援を実施してきましたが、子どもの成長が早いため、成長の変化を、短時間で効率よく情報共有して、修正が十分でなかったケースもあるようです。今後、支援の軌道修正が迅速に実際の支援に反映して、職員が共有しながら支援を実施できるシステムを検討して行きます。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	18	3	2	・保育士が行っている。	・今年度も、長時間のサービス提供のクラスは、職員の話し合いの場や共有の場が少なく、支援の計画や変更の共有が非常勤職員にも共有されにくいことがあり、今年度、引継ぎノートや子どもの中心的な取組カードをを作成するなど、工夫がなされました。短時間ではありますが、外部の専門家によるケースカンファレンスも実施し、プログラムの具体的な改善がなされました。 ・一日支援のクラスは、集団活動を中心に、個別の支援を試行的に実施してきました。来年度も、短時間ではありますが、外部専門家の助言も取り入れて、子どもの個別の活動プログラムや支援等の情報共有を行い、支援の軌道修正をしながら支援を実施して行きます。 ・職員の勤務時間は様々であるが、支援内容や支援の振り返りの情報共有を実施していています。 ・今後、各月や夏季、冬季期間中に情報共有の場の設定を計画的に実施します。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	19	2	2	・工夫はしているが、大枠を変えるには至っていない。プログラムの内容を増やせると良い。 ・作業所など、見学の機会があると支援内容が広がる。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成 している	22	0	1		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	18	4	1	・役割分担に偏りがある。 ・前日、あるいは当日の朝の会で実施している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付 いた点等を共有している	18	5	0	・可能な限り、振り返りや情報共有を実施している。 ・設定されているが、ほとんど実施できない。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	21	2	0	・ヒヤリハットなどは全職員（クラス内も無し）に振り替えることができるように冊子やファイリングをしてほしい。	・ヒヤリハットなど振り替えることができるように冊子やファイリングをしていますので、職員に情報共有を周知して実施します。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	20	1	2	・半期計画を立てているが、内容は子どもの状況に合わせて変更している。	・年２回のモニタリングを実施して、保護者と職員間で情報を共有しながら個別支援計画に沿って、計画の見直しを行い、子ども一人一人の支援の改善を図っています。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない 無記入	ご意見	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	20	1	2		・相談支援事業所のモニタリングを通して、連携をしていますが、今後は、相談支援の担当者会議等の情報を職員に周知するようにして、連携を図っていきます。 ・市の母子保健や子育て支援等の関係機関とは、管理者中心に情報交換や連携をとってきました。今年度、相談支援支援専門員を配置して、各クラスと情報を共有しながら、家族支援や、地域支援を実施しました。 ・次年度は、他事業所との情報共有や支援の情報交流を定期的に実施します。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	19	3	5	・本園の相談支援専門員は、当センターで会うため、定期的に情報共有できたが、他事業所との情報共有は少ない。 ・今後も、連携できる関係機関を増やして行きたい。	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	16	2	5	・家族からの情報を得るだけになっている。 ・保育園や学校との連携強化を図りたい。	・今年度、医療的ケアが必要な子どもについては、市や関係機関との調整、情報収集や見学の受け入れを実施してきました。また、今年度から保育所等訪問支援に加えて居宅型訪問児童発達支援も実施し、東京都医療的ケア児支援センターや市内の相談支援専門員と連携をしながら、医療的ケア児等への地域の保育園、幼稚園、学校等関係機関との連携構築が少しずつなされてきました。 ・今後は、更に、東京都医療的ケア児支援センターや相談支援専門員と連携を図り、保育所等訪問支援や居宅訪問型児童発達支援の拡充を図りながら、連携体制を進めインクルーシブな支援の拡充を図って行きます。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	14	3	6		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17	3	3	・数名のみ実施している。 ・移行支援について知識不足であると同時に相互理解ができていないため、学校や保育園等、見学や交流の場が必要である。	・今年度、本センター卒園生の保護者や地域の先輩保護者による就学に関する情報共有の勉強会を実施しました。また、卒園生の保護者を招聘して、地域の特別支援学校の就学に関する研修会を実施するなど、積極的に情報発信と共有を進めてきました。 ・就学に関する情報共有として、特別支援学校の見学も積極的に実施しました。今後、特別支援学校や市内の小学校、特別支援学級、保育園などの情報共有と研修を実施して行きます。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校 （小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	4	5	・特別支援学校の見学に行きたい。 ・相談支援専門員を通して情報共有できたが、直接共有はできていない。支援学級の授業を知りたい。 ・学校や保育園等、見学や交流の場が必要である。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	8	3	・併行利用の保育園等の取り組みや職員からの情報を共有したい。 ・他の児童発達支援事業所の内容について知りたい。	・今年度、NPO子育て支援関係機関や東村山市と連携して、児童発達支援事業所や専門機関と連携した情報共有や支援に関する研修を実施しました。 次年度、児童発達支援事業所や発達障害者支援センター等の専門機関と連携構築を具体的に図って行きます。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	11	8	4	・もっとセンター内で交流の機会を設けても良いと思う。 ・保育園や学校との連携強化を図りたい。	・今年度は、同一建物内のエメット保育園（０から2歳児）とのインクルーシブな取り組みとして、新たに「センサリープレイ」を実施することができました。また、地域の保育園との交流や障害に関する研修会を積極的に実施しました。来年度も保育園や学校との連携強化に向けた検討をして行きます。
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	7	6		・東村山市児童発達支援センター連絡会を２回、それ以外に診療報酬改定に関する勉強会を開催し、市と協力して企画運営を行いました。自立支援協議会相談部会は、児童発達支援の役割を情報発信しました。今後、センターとして更なる情報発信と地域のとの共有を行います。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	22	1	0	・保護者と子どもの発達について、話し合いが少ない。	・今年度、就学に関する研修会を、対面とオンライン、動画配信というハイブリッド方式で実施したり、対面での保護者会を実施するなど、保護者と職員が情報を共有ました。次年度、子どもの発達の状況や課題、子どもの進路等の情報共有について、保護者研修会、保護者交流会を実施して行きます。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ トレーニング等）の支援を行っている	7	13	3	・中々、実施できない。 ・活動の振り返りの中で保護者と話しているが、ペアレント・トレーニングとしては実施していない。	・地域の保護者の協力を得て、ペアレント・メンターとして保護者支援研修会を実施したり、外部専門家を活用した保護者個別相談も実施しました。また、市内の保育園に向けたオンラインや対面による保護者支援研修会を実施しました。次年度は外部専門家の協力も得ながら、子育て支援教室や保護者個別相談などを定期的に実施して保護者支援を実施して行きます。
保護者への説明責任等	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	18	3	2		・今年度、診療報酬改定等、制度の大きな改定について保護者に対しての説明を説明してきました。今後も、様々な制度等の改定があるため、引き続き契約書類も含めて、保護者の皆様に丁寧な説明を行います。
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	21	0	2		・今年度、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び客観的な支援目標及び内容や、「児童発達支援計画」を示し、保護者に説明と同意を得て行きましたが、未だ十分な説明が周知されていない状況です。次年度も引き続き、丁寧な説明を実施します。
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	20	1	2	・保育園や他関係機関の情報を職員一人一人が理解すれば、適切な支援や相談支援ができると考える。 ・数名のみ実施している。	・保護者からの子育ての悩みや就学等の相談や関係機関から必要な助言を取り入れ、適時、支援の改善を実施してきました。次年度、地域の関係機関や卒園児の保護者に協力を得ながら、インクルーシブな支援と関係機関を活用した支援について、職員全体に周知して、関係機関と連携した相談支援を実施します。
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	16	5	2	・今年度、業務に専念しているため開催はできていない。 ・年１回の保護者会を実施している。	・今年度、重心（長時間）、重心外クラス（長時間）が対面での保護者会を実施しました。次年度、対面による保護者会を必要に応じて複数回、実施するとともに、保護者同士の情報共有できる連携支援を実施して行きます。
	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	21	0	2		・各クラス、利用開始時やモニタリング等で定期的に面談を行い、随時、個々の保護者からの相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応してきました。また、緊急時の事案については、できる限り対面による保護者会を実施しました。 次年度、定期的な保護者会を実施すると同時に、当センターにおけるSNSを活用した保護者相談室（試行）を実施して行きます。
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	17	2	4	・保護者の送迎時に情報を伝えているため、会報などの情報発信は特にしていない。	・今年度、定期的な通信（クラスだより）に加えて、オンラインでの活動概要を配信したり、メールによる情報を配信しました。今後、個人情報保護の対応を十分にしながら、SNSなどを活用した情報発信を実施します。
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	22	0	1		・個人情報の取扱いについて、確認をしながら十分注意しています。
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	22	0	1		・情報伝達について一人一人の児童の障害特性に応じた配慮や調整をしてきました。今後、具体的な支援や情報伝達に関する支援の工夫をしていきます。また、保護者にも、様々な状況を把握しながら、情報について配信します。
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	12	8	中々計画できない。	・今年度、初めて市議会議員の方々による見学や、市内民生委員の方々に、本センターの活動を説明させていただきました。今後、地域の方と交流できる場を増やして行きます。
非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	17	2	4	・もっと増やしてほしい。 ・作成しているが、職員の周知には至っていない。 ・マニュアルの周知をしてほしい。	・今年度、BCPを作成したり、他のマニュアルについて、各クラスの聞き取りを実施しながら改定してきました。 ・今年度、大規模災害を想定した訓練をSLPセンターArkで計画・実施するなど、安全・安心を確保できるようにして行きました。 次年度は、搬送訓練、消火器訓練なども含めて、多様な災害時を予想して計画的に実施します。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17	1	5	・実施しているが、回数を増やせると良い。	
	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	18	2	3		・委託医師や主治医から契約時に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況は必ず確認しています。
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	19	1	3	・	・今年度、医師の指示書の有無を確認して、食物アレルギーなどに対応しています。
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	14	4	5	・もう少し状況の把握が必要。SHELL分析や職員トレーニング（危険予知訓練）も実施しても良い。 ・非常勤職員も含めて、全職員で共有されると良い。 ・事例が少ない。	・今年度、ヒヤリハットについては、毎回、各主任に周知して各クラスで共有しました。次年度は、全体での共有を検討し、経営会議や全体職員会など事例集を作成して事業所内で共有して行きます。 ・今後、SHELL分析や職員トレーニング（危険予知訓練）の実施も視野にいれて検討したいと思います。
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20	0	3		・今年度、マルトリートメントも含めた児童虐待防止研修を実施しました。また職員のアンケートも実施しましましたが、次年度は、身体拘束等の適正化と虐待防止に関する参加型研修やハラスメント等、研修会を実施して適切な対応を実施して行きます。
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	14	2	7	・今後、身体拘束に関する関する同意書は必要だと考える。	・今年度、姿勢保持が必要な子どもには、転倒防止のため、ベルトによる姿勢保持を行いました。また、子どもが安定保護者に事前説明を行い、個別支援計画等に記載しています。次年度、身体拘束に関する関する同意書については、検討して行きます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。